

## 生命科学図書館展示

「人体は美しいか 解剖図と絵画から見る身体観」より。  
日本画と西洋画における人物描写の特徴からみえる身体観の違いとは？ 本文はp.4-5。



## 目次

シェアライブラリーに込めた思い	P.1
図書館に「天空の城ラピュタ」があるの？	P.2-3
人体は美しいか	
解剖図と絵画から見る身体観	P.4-5
NEWS 図書館からのお知らせ	P.6-7
修了TAからのメッセージ	P.6-7
図書室めぐり CJLC図書室	P.8

## シェアライブラリーに込めた思い ～在校生へのメッセージ～

理学部数学科 5回生  
徳田 峻人

こんにちは。外国語学部3回生の濱崎杏子です。私は、右の記事で紹介されているシェアライブラリーの利用者の一人です。現在12冊の本を貸出用に提供しています。もともと私は本が好きで、特に本を通して人と交流することに興味がありました。大阪大学は総合大学ということもあり、本当に様々な人がいると感じています。だからこそ、その人たちの読む本もそれぞれ私の知らない世界にあふれているに違いない……。そこで、シェアライブラリーでは図書館で一般的に行われている「本の貸し借り」だけではなく、読者同士の交流のために感想ノートを設置してみました。まだまだ改善の余地が多い取り組みですが、図書館とはまた違った読書のカタチで皆さんが素敵な1冊に出会うきっかけをつくっていきたいと思います。



皆さん初めまして。理学部数学科5回生の徳田です。現在僕は豊中キャンパス総合図書館の中で「シェアライブラリー 1ダースの図書館@阪大」を運営しています。このシステムは簡単で「学生が自分のおすすめ本を置いて、他の学生が借りられる」というものです。現在130冊程の本が置かれ、常に20冊以上は借りられています。

このシェアライブラリーは二つのことを目的としています。それは「本を通じた学生同士の交流を生む」、「学生の読書量を増やす」の二つです。僕は大学に入る前は小説ばかり読んでいましたが、大学に入ってから「勉強のため」と思い経営者や起業家の方が書かれたビジネス本を多く読むようになりました。このような本を読むと、学生でも学ぶことも多く、自分の考え方にも大きな影響を与えてくれました。実際に読んだ本の影響で、休学して海外に行くことも決めました。その頃から「もっと本を読む学生が増えればいいのに」と思うようになり、友達にも読書を勧めていました。

また、休学して行った海外で、経営者の方々がおこなっている読書会に毎月参加していました。そこでは経営者の方々が毎月自分が読んだ本を持ち込み、内容を交流し、貸し借りするということが行なわれていました。その中で僕は一人だけ学生でしたが「本」というものを介して経営者の方と交流することができました。



総合図書館内  
シェアライブラリーにて

このような経験を通して「大学生の読書を推進し、本を通じた交流ができる場」が作れないものかと考え、結果的にシェアライブラリーができました。

僕は3月で卒業し社会人になるわけですが、これからも少ない時間の中で読書は続けていきます。在校生の皆さんはこれからたくさん時間のある生活を送ることだと思います。そんな皆さんに言いたいことが一つ、「たくさん本を読んでください」。社会で活躍している人の多くが、日常的に読書をしています。大学には図書館もシェアライブラリーもあります。読書ができる環境は整っています。一人でも多くの阪大生が少しでも多くの本を読むようになることを期待しています。

## 資料の紹介



『これなら完璧! プレゼンテーション』  
発行：2006  
分類番号：336.4/NIH  
場所：総合図書館  
映像資料コーナー

プレゼンテーションについて、主にボディランゲージの面、スライド画面・基本構成・進行方法について基礎的なことを解説しています。プレゼン技術向上には実際の練習も必要ですが、動画で実例を見ることができ、基礎知識の習得や再確認に役立ちます。



『ER 緊急救命室』  
発行：1999～  
分類番号：778.8/ER  
場所：生命科学図書館

アメリカの人気医療系ドラマ。医学の知識や用語を楽しみながら勉強できます。救急医療の場を舞台として人生ドラマが繰り広げられます。登場人物が魅力的な上に、シーズンごとに入れ替わりがあるため飽きることがありません。また、1分1秒が鍵となるERが舞台なのでスピーディに話が展開します。

# 図書館に「天空の城 ラピュタ」があるの？

## 「ラピュタ」あります！

図書館には貸出できるDVDもあるんです。



図書館にはDVD資料があります。「天空の城ラピュタ」は、日本文化を理解するものとして購入しています。アニメ以外に、映画、教養、就活関連など幅広いDVD資料があります。ここでは、知って得する図書館の各コーナーをご紹介します。

「天空の城ラピュタ」がどこにあるかは記事内に答えがあります。

## 総合図書館

### ★総合図書館 B棟3F 映像資料コーナー

学生の皆さんがパソコンで作業にそしむB棟3Fの奥に、DVDなど映像資料が置かれています。自然や歴史、音楽、ドラマに映画と幅広い分野の資料があります。NHKスペシャルやナショナル・ジオグラフィックなどは多くの方の興味に合うのではないのでしょうか。好きなDVDを探しに来られては？



### ★総合図書館 A棟3F 留学生コーナー

### ★総合図書館 A棟2F キャリア支援図書コーナー

○留学生コーナーには、日本アニメ、日本映画、落語などのDVDがあります。日本人学生も利用できます。

「ラピュタ」はここにあります（分類番号：778.77/MIY）。

○キャリア支援図書コーナーには、大人気の「NHKプロフェッショナル」や、就活やビジネスマナーを扱った「日経Video」シリーズがあります。



## 例えば、こんな使い方（1）

★授業の空きコマに、パソコンを使って視聴すると効率的。長さが60分ほどのDVDも多くあります。

## 生命科学図書館

### ★生命科学図書館 1F AV資料コーナー

ゲートから入り、階段を抜けた先にAV資料コーナーがあります。主に医学に関する映像資料があります。医学・看護学・歯学等の分野で、基礎勉強から治療方法まで分かりやすく学ぶことができます。左ページで紹介している「ER」もここにあります。



(※)2014年2、3月の改装工事により配置場所が変わる可能性があります。

## 理工学図書館

### ★理工学図書館 東館1F 視聴覚資料・視聴覚ブース

東館1F、文庫新書コーナーの奥側に視聴覚資料と視聴覚ブースがあります。宇宙、建築、歴史など、さまざまな分野の視聴覚資料があります。貸出も可能ですのでぜひのぞいてみてください。



## 外国学図書館

### ★AVライブラリー (総合研究棟3F)

箕面キャンパスには、映像・音声資料を専門としたAVライブラリー(総合研究棟3F)もあります。DVD(約2,000点)をはじめ約4,400点の資料を所蔵しており、ライブラリー内での利用が可能です。世界9言語の衛星放送も視聴できます。2~3人用のブースもありますので、複数人での利用も可能です。語学自習はもちろん、授業の合間の息抜きにもぜひご利用ください。



### 例えば、こんな使い方(2)

★他キャンパスにあるDVDを蔵書検索の画面から取り寄せすることができます。(阪大個人IDが必要です。AVライブラリーの資料は取り寄せできません。)

## 資料の紹介



『壺中：北欧建築と日本のフォルム』

発行：2003

分類番号：A523/WAC

場所：理工学図書館

日本建築の伝統、質感は、北欧の建築に多大な影響をもたらしました。その影響について、安藤忠雄や伊東豊雄、スヴェレ・フェーンやクリスチャン・グリクセンといった著名な建築家が語っています。また、映像で解説されるからこそ分かる建築の妙も必見です。



『華麗なるギャツビー』

発行：2013

分類番号：E-1318

場所：AVライブラリー

米文学の最高峰、フィッツジェラルドの小説「グレート・ギャツビー」を、映像派のバズ・ラーマン監督&レオナルド・ディカプリオ主演のコンビで再映画化。ミステリアスな大富豪ギャツビーの過去と、上流階級女性との禁断の愛が描かれます。



## 「死体」を見る まなざし

解剖の前提にあるものは、「死体を見るまなざし」、つまり「死体は人間ではなく『死体』である」という考えや「人間を『もの』と見る見方」とであるとされています。

解剖を行うためには人体を客観的に見る視点が必要であり、それができて初めて人体を細分化する——脳・肺・胃等を一つの器官であるとみなすことにつながります。

レオナルド・ダ・ヴィンチのスケッチから彼が客観的な視点で人体を見ていたことが分かります。

(引用箇所は、『医療』Vol.6, no.2 (1990年)「解剖図の歴史(第2回)「死体」の誕生 人はヒトをどう見てきたか」布施英利・養老 孟司より)

# 人体は美しいか 解剖図と絵画から見る身体観

2013年8月～9月、生命科学図書館にて解剖と美術にまつわる展示を行いました。展示内容の紹介とともに展示では触れられなかった本についても紹介します。

## I 解剖図と絵画の関係

解剖学の研究は、宗教的・技術的な理由から長らく人体解剖を行わず、動物の解剖や古代ギリシア・ローマ時代の説に頼っていましたが、13世紀ごろから大学で人体解剖が行われるようになり発展のきざしを見せます。しかし、解剖図については稚拙で誤りが多く、正確かつ精緻な図版はまだ誕生していませんでした。

### ダ・ヴィンチの解剖図

ルネサンス期(14世紀～)に入ると、芸術家達も解剖への興味を抱き自らメスを取る者まで現れました。レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロが有名な例です。

ギリシア・ローマ時代以降のキリスト教絵画は、象徴的でリアリティに欠けていましたが、ルネサンス絵画は見たままの美しい肉体を表現しようとしてきました。その中でダ・ヴィンチは身体を描くためには解剖学の知識が必要であると考えました。彼のスケッチは詳細かつ正確で、時代を超越したものでした。

・レオナルド・ダ・ヴィンチ著 清水 純一、万年 甫訳

『レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図：ウィンザー城王室図書館蔵手稿より』(岩波書店 1982年)

### ヴェサリウスの解剖図

同時代、解剖学の大著『ファブリカ』も著されました。

著者のヴェサリウスはダ・ヴィンチと同時代の解剖学者で、古代から信じられてきた通説の誤りを、実際に人体解剖を行った上で指摘しました。その解剖図は正確さはもちろん、現代のものとは異なり、解剖された人体がポーズをとったり、風景が書き込まれたり、芸術品としても鑑賞に値する点が特徴です。

・Andreas Vesalius,

『De humani corporis fabrica libri septem』(1964年) 略称は『fabrica(ファブリカ)』



### 顕微鏡や写真技術の発達

解剖学者と芸術家が協力して芸術的かつ正確な解剖図を出版し、芸術家が作品創造のために解剖学を学ぶ——解剖学と芸術は密接な関係にあり、お互いの発展になくなくてはならない存在でした。しかし、顕微鏡や写真などの技術が発達してくると、「肉眼で観察してそのまま描く」ことから離れていきます。

顕微鏡が発明されると、肉眼では到達できない小さな世界を観察できるようになり、解剖学の研究はミクロの世界が重視されるようになりました。

また、写真技術の発達によって、主に肖像画を描いていた画家達は仕事を奪われてしまいました。そこで、リアリズムを追い求めて細かい線で描くのではなく、光や色を重視する「印象派」が生まれるなど転換期を迎えました。一方で医学の場でも写真技術が利用されるようになると、解剖図作成は画家の仕事ではなくなっていました。

ミクロの世界を追及する医学、写実性とは違うものを求めた芸術。2つは別々の道を模索しはじめました。

## Ⅱ 日本における解剖図と美術上の裸体表現

### 日本における解剖学

日本最古の人体解剖の記録としては、『日本書紀』第14巻雄略天皇の条に皇女の解剖（現在でいう法医解剖）の記述がありますが、中国古来の五臓六腑説の影響もあり、人体解剖をもとに解剖図が描かれたのは江戸時代後期に公刊された山脇東洋の『蔵志』（1759年）が始めとされています。その後15年して杉田玄白らにより初めて西洋の解剖書を本格的に翻訳した『解体新書』が刊行され、この後急速に西洋の成果を取込み、日本の医学が発展する礎となりました。

- ・日本医史学会編『図録日本医事文化史料集成 第2巻』（三一書房 1977年）  
2巻は解剖図、手術図の巻で、中世以降の日本の解剖図を通覧できます。
- ・大城 孟著『解体新書の謎』（ライフ・サイエンス 2010年）  
医師の視点から解体新書に書かれた内容を解説し、成り立ちから翻訳の過程の様々な謎に迫っていきます。

### 西洋と日本の裸体表現の違い

西洋の美術作品と違い日本の美術作品には裸体の表現が多くない、いやむしろ西洋では絵画や彫刻など裸体の表現が多すぎると感じたことはないでしょうか。西洋では神々を理想的な人体の姿で表現するなど、古代ギリシャに端を発して理想美の具現として裸体の人体を造形してきました。

一方、日本では明治期までは来日した西洋人が皆驚くほど日常に裸体が溢れていたものの、人体の理想的な比率を考えたり、筋肉をリアルに描くことによって美を表現することはあまりなかったように思われます。その反面、衣服の色合いやしぐさ、たずまいの表現に重きが置かれているようにみえます。鮮やかな色彩で陰影をあまりつけない平面的な描き方をする浮世絵が、西洋の印象派の画家たちに影響を与えたのも西洋と日本の身体に対する視点の違いによるところが大きいのではないのでしょうか。

西洋では人体を造形する際において解剖学的知識の重要性が早い段階から認識されてきましたが、日本にその考えが現れるのは明治期になってからでした。その意味では明治期までの日本において解剖学と美術の関係は西洋ほど深くはなかったようです。

- ・ケネス・クラーク著『ザ・ヌード』（ちくま学芸文庫 2004年）  
ヌードを西洋美術史のひとつの大きな柱として初めてとらえ、体系的にまとめた西洋美術史の古典的著作。
- ・宮下 規久朗著『刺青とヌードの美術史—江戸から近代へ』（NHKブックス 2008年）  
西洋と日本の裸体芸術の比較に始まり、日本での変遷をたどります。
- ・谷川 渥著『肉体の迷宮』（ちくま学芸文庫 2013年）  
明治以降、日本人が西洋美術に対峙した過程を論じる「『日本人離れ』の美学」、谷崎潤一郎と三島由紀夫の肉体美の比較などの肉体表象の論文集。

## Ⅲ 身体観

身体観・身体論の研究は哲学、社会学、人類学、心理学、芸術等、様々な視点からなされます。その中でも芸術や解剖図は、視覚的な表現のため大変分かりやすい材料となります。もちろん、背景を理解して読み解く必要があるものの、身体を考える一歩として役に立つことでしょう。

- ・菊地 暁ほか著『身体論のすすめ（京大人気講義シリーズ）』（丸善 2005年）  
美術、音楽、宗教、天皇制、学校、労働、医学、生物学。異分野の11人が『身体』について論じている。
- ・A.コルバン監修『身体の歴史』（3巻本）（藤原書店 2010年）  
宗教、美術、医学、法学、文学、社会史、様々な視点から論じられる大著。

（吹田地区図書館サービス課 白石真之、荒木のりこ）

※文中でご紹介した資料はすべて大阪大学附属図書館に所蔵しております。所蔵館、配架場所は蔵書検索（図書館Webサイト「図書・雑誌」タブ）より検索ください。

### 解剖学史から 見る人体

解剖の歴史を追うことで、人が身体・人体をどう見ていたのかを知ることができます。以下の2つの資料は、図版も多く解剖の歴史を知るための好書です。

- ・藤田 尚男著『人体解剖のルネサンス』（平凡社 1989年）  
解剖学の源流からはじめて、人体解剖がどう発展したかをたどる。
- ・坂井 建雄著『人体観の歴史』（岩波書店 2008年）  
西洋・日本の解剖史を数多くの資料を基に考察し、そこから人体観を探る大著。

# NEWS☆図書館からのお知らせ(2013.9～)

## 修了TAから メッセージ

図書館TA(ティーチング・アシスタント)は、学生の皆さんの学びをサポートする大学院生のスタッフです。総合図書館、理工学図書館、外国学図書館のラーニング・commonsで、それぞれの専門を活かして学習相談や講習会などを行っています。

大学院生である彼らは、図書館スタッフの中で最も学生の皆さんに近い存在です。2013年度、晴れて大学院を修了するスタッフから、在校生の皆さんへメッセージです。



大学時代は自分の興味に全力で向き合う大切な時間だと思います。幅広い視野を持ったり、一つの物事を突き詰めたり、そのなかで図書館は大きな役割を持ちます。その役割を皆さんに知ってもらいたいとTAとして数学の課題をじっくり手伝ったり、講習会を企画したりして、皆さんと交流してきました。図書館に足を運んで有意義な学生生活を送って下さい。

総合図書館TA

理学研究科 M2  
秋定朋宏さん

## 学生選書実施

◆図書館にこんな本があったらいいのに。自分がいいなと思った本を、みんなにも読んでほしい。...そんなふうに思うことはありませんか? そんな声を反映させるため、学生の皆さんに直接選書をしていただく『学生選書』。2007年からはじまったこの企画、好評により2013年度も実施しました。

●店頭選書 書店で直接選書。9月25日 MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店にて実施。16名参加。計311冊選書。

●Web選書 Web上で選書。期間中(10月21日~10月27日)好きな時間に選書可能。44名参加。計668冊選書。

皆さんに選んでいただいた図書は、順次利用可能となっています。図書館Webサイトに選ばれた本のリストを掲載していますので、ご覧ください。



## 授業「アカデミック・スキルズ」で図書館職員が講師を一部担当 [総合図]

◆本学のグローバルコラボレーション科目「アカデミック・スキルズ」において、図書館職員が9月24日に講師を1コマ担当しました。担当教員の上田晶子特任准教授(グローバルコラボレーションセンター)の依頼によるものです。「アカデミック・スキルズ」は夏季集中講義として開講されました。学術論文を書くためのリサーチクエストの設定、情報収集や文章などでの表現を学ぶ科目です。その授業の中で、図書館で提供しているデータベースの利用方法や文献の収集方法、図書館の施設・サービスについて説明しました。講師は大塚志乃専門職員が担当。総合図書館ラーニング・commonsで実施しました。



## 論文の書き方・文献の読み方 プチゼミナール [総合図]

◆10月から11月にかけて、3-4回生を想定した論文プチゼミ(全4回)を開催しました。今回は豊中地区に加えて、吹田地区でも開催。参加者はのべ25名でした。講師は、堀一成准教授(全学教育推進機構)と赤井規晃専門職員(附属図書館)が担当しました。



## 星空観望会 [総合図]

◆大阪大学天文同好会と附属図書館の共催で「星空観望会」を12月6日に実施しました。星空観望会は、天文部員によるレクチャーと天体観測から構成。レクチャーはステューデント・commons、天体観測は豊中学生センター横の芝生広場にて。約50名の方に参加いただきました。また、天文同好会による写真展示を総合図書館ラーニング・commonsで11月下旬から実施しました。



## 附属病院看護部の研修 [生命図]

◆附属病院看護部の研修の一環として、看護師を対象とした文献検索研修を12月に2回実施しました。参加者は45名でした。先行研究の探し方、資料の収集方法について赤井規晃専門職員(附属図書館)による講義ののち、医中誌Webを使った持参課題についての文献検索演習を行いました。

## キャリア支援図書コーナーがオープン [外国学図]

◆9月26日、外国学図書館2階閲覧室にキャリア支援図書コーナーがオープンしました。キャリア支援図書コーナーには、就職活動はもちろん、大学院進学や留学などに向けて役立つ資料を揃えており、人気のコーナーになっています。



## 図書館TA講習会 [総合図、理工学図、外国学図]

10月から12月にかけて、総合図書館、理工学図書館、外国学図書館において、図書館ティーチング・アシスタント（TA）講習会を開催しました。

### 【総合図書館】

- 自分に合った外国語学習法を考えよう
- 提出日に慌てない！ 卒論マネージメント術（文系編） ほか

### 【理工学図書館】

- 3.11後の電源構成（12月11日）
- 知らなかった！ 身近なプラズマ（12月17日）
- 理系が楽しむ経営学 ～超入門編～（12月17日） ほか

### 【外国学図書館】

- フィールドワーク超入門講座・後編（11月28日）
- 会話データを用いた研究：会話分析ことはじめ（12月3日）
- ～キャリアを考えるシリーズ～  
海外の大使館で働く「派遣員」という仕事を知ろう！（12月6日） ほか



## 講習会 [外国学図]

### ◆映画字幕翻訳講座2013

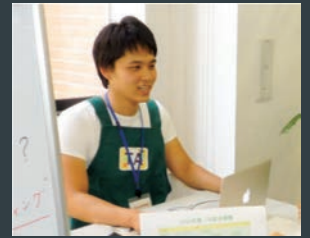
毎年好評の映画字幕翻訳講座を、11月6日、外国学図書館4階AVホールにて開催しました。映画字幕の第一線で活躍される字幕翻訳家の松岡葉子さん、字幕制作者の堀三郎さんのお二人にお越しいただき、映像翻訳の基礎知識の解説をはじめ、映像と翻訳、映像と字幕の関係をやさしく分かりやすく、また楽しく講義していただきました。（主催：大阪映像文化振興事業実行委員会 共催：言語文化研究科、外国学図書館 参加者：84名）

### ◆上映会：ハンガリーアニメーション！ — “もの” にまつわる伝統と習慣—

12月19日、外国学図書館るくすにて標記の講演会を行いました。外国語学部ハンガリー語専攻卒業生であり、ハンガリーアニメーション上映プロモーターのなほちかはるこさんを講師にお招きし、短編作品3本の上映に加えて、ハンガリーならではの文化や習慣などを解説していただきました。（主催：外国語学部ハンガリー語専攻 共催：外国学図書館 参加者：35名）

## 各館図書展示

- ◆ノーベル賞の世界2013 [理工学図]（9月～12月）
- ◆第35回「14冊の本棚」：糸が織りなす世界 14冊+1 [外国学図]（10月）
- ◆第36回「14冊の本棚」：映画字幕は翻訳ですか 一映画・字幕・翻訳を考える14冊— [外国学図]（10月～11月）
- ◆TA “Recommended Books” 「外に目を向け展」 [外国学図]（11月）
- ◆第37回「14冊の本棚」：適塾、江戸期の蘭学・洋学者たち— 司馬遼太郎『花神』を糸口に [外国学図]（11月～12月）
- ◆芸術×セラピー [生命図]（11月～12月）
- ◆阪大生の選んだ100冊から [総合図]（12月～）
- ◆ピブリアバトル（サイエンスルー主催）で上位に選ばれた本 [総合図]（2014年1月～）
- ◆学生選書で購入した本 [総合図]（12月～）
- ◆眠れる森の科学 [理工学図]（12月～）



• 授業や過去問の解答が分からない時  
• 進路や生活で悩んでいる時  
• 勉強がつまらない時  
には、本の力を借りてみましょう。図書館には指定教科書よりも分かりやすい本がきっとあります。進路や生活面で、大きな決断をした人生の先輩たちの本があります。資源問題や経営戦略の本を読めば、読書・勉強の楽しさを思い出します。Googleで分からなくても、本を読めば分かることがたくさんあります。困った時は図書館を利用することを強くお勧めします。

理工学図書館TA

工学研究科 M2  
渡邊和真さん



TAとして従事して思ったことは、学生の皆さんが「図書館のサービスをあまり知らない」ということです。外国学図書館へは、本を借り、静かなところで自習するために行くことがほとんどでしょう。しかし、図書館には様々なサービスがあります。例えば、データベースで、世界中の新聞の閲覧、就活に役立つ会社四季報の利用などが可能です。また、私たちTAも学習相談に乗ったり、専門分野に関する講習会を開いたりしています。皆さんには、もっと図書館の様々なサービスを知ってもらい、活用していただきたいと思います。

外国学図書館TA

言語文化研究科 M2  
村山優美子さん

## 図書室・資料室めぐり

### 日本語日本文化教育センター(CJLC)図書室

#### ★場所

日本語日本文化教育センター（Center for Japanese Language and Culture：以下CJLC）は、箕面キャンパスにあり、毎年約50の国や地域から150名近い国費留学生を受け入れています。その教育実績が評価され、2011年には文部科学大臣から日本語・日本文化の教育関係共同利用拠点として認定されました。

図書室はそのような活動を支える施設としてセンターの2階に設置され、静かに学習できる環境が整っています。

#### ★所蔵資料

CJLC図書室は、日本語や日本文化に関する資料を所蔵しています。日本語を基礎から学習するための教材はもちろん、日本語学、日本文学の専門書まで揃っています。美術や芸能などに関する資料は古典から現代まで幅広く収集しており、最近では漫画やアニメーション関連の図書が留学生に人気となっています。

また、図書だけではなく視聴覚資料も数多く所蔵しています。どのような視聴覚資料があるかは、CJLCのWebサイトにある「日本文学資料データベース」で検索できますので、こちらをご利用ください。



#### ★利用

来室の際は学生証または図書館利用者票をお持ちください。視聴覚資料は図書室内で視聴していただくことになっていますが、図書は貸出することも可能です。他キャンパスからは、蔵書検索を通して取り寄せもできます。

学内・卒業生の方であれば、どなたでも利用できる図書室ですので、日本語や日本文化に興味のある方は、ぜひ訪ねてみてください。

開室時間：平日 10:00-18:30

閉室日：土日・祝日

夏休み（8/13-8/15）

年末年始（12/29-1/3）

<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/>